

名古屋港特集

愛知県は皆様もご存知の通り、産業集積日本一の「モノづくり県」であり、昭和52年以来41年間、製造品出荷額等が全国第一位であります。そして、本県の「モノづくり」を支える重要なインフラの一つが名古屋港であります。私は本年6月より、愛知県と名古屋市によって設立された一部事務組合【名古屋港管理組合】の副議長に就任いたしました。情報が瞬時に届くこの時代において、物流の効率化、速達化は産業活性化において重要なポイントとなります。今後とも物流の要である名古屋港の発展に向け、精力的に取り組んでいきたいと存じます。



物流

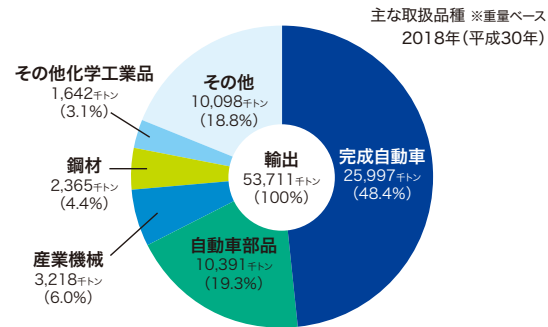
1 広大な港湾空間 機能的配置の港湾空間 臨港地区の広さは日本最大



名古屋港は遠浅の海を浚渫し、その土砂で土地造成を行ってきた人工港です。現在では、4市1村にわたる広大な臨港地区と港湾区域を有し総面積は名古屋市のほぼ1/3に匹敵します。特に臨港地区は、東京港と横浜港を合わせた面積よりも広く、日本最大の規模となっています。ここに各機能が効果的に配置され、一大生産拠点と新たな産業の進出による需要創出を可能にしています。

2 ものづくりと暮らしを支える 名古屋港は中部の活発な生産活動と旺盛な消費活動を支えています。

ものづくり

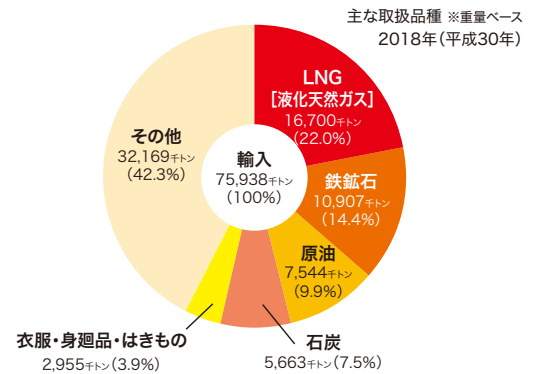


「ものづくり中部」と世界を結ぶゲートウェイとしての役割

名古屋港の背後圏には、自動車、工作機械、航空宇宙、鉄鋼、電気製品等、世界的な「ものづくり産業」が集積しています。なかでも、愛知県の製造品出荷額等は1977年(昭和52年)以来、連続して全国1位の実績を誇っています。

「ものづくり中部」のゲートウェイとしての名古屋港の役割が、これらの実態に示されています。

暮らし



暮らしの必需品から電気・ガスのエネルギーまで

エネルギーは9割以上、食料品は6割を輸入に依存。これらを含め、日本が輸出する総取扱貨物量の99.6%が港を経由して運ばれています。

名古屋港には、衣服・身の用品・はきものや日用品、家具・家具用品等の暮らしの必需品のほか、穀物、鉄鋼石、原油、液化天然ガスなどのエネルギー資源などが運ばれてきており、この地方のものづくりや豊かな暮らしを支えています。

名古屋港の港勢

(平成30年)

17年連続日本一

総取扱貨物量

1億9,659万トン

21年連続日本一

貿易黒字額

7兆1,477億円

40年連続日本一

自動車輸出台数

138万台

19年連続日本一

外貿貨物総取扱貨物量

1億2,965万トン

7年連続日本一

外貿コンテナ貨物取扱貨物量

4,951万トン

20年連続日本一

貿易輸出額

12兆4,845億円

防災

1 高潮・津波対策 後背地を浸水から守る2段階の防災設備



高潮防波堤

総延長7.6km。老朽化対策のほか、大規模地震や高潮・津波災害に対する安定性を確保するため、名古屋港基準面より+8.0m高までの高上げや補強などの改良工事を実施しました。

防潮壁・防潮扉・防潮水門

総延長26.4km、名古屋港基準面より+6.0～6.5m高の防潮壁が港内に連なり高潮の市街地への流入を防ぎます。大規模地震発生時にも防災施設としての機能を維持できるように、液状化対策を進めています。

2 地震対策 緊急物資の輸送と国際物流機能の確保

名古屋港では、緊急物資や人員の海上輸送ルートを確認するための耐震強化岸壁のほか、国際コンテナ物流機能を確保するため、コンテナターミナルにも耐震強化岸壁が整備されています。

また、「伊勢湾の災害時における国際コンテナ物流機能の確保に関する協定」を四日市港と締結し、港湾機能の低下を防ぎます。

緊急物資・人員の海上輸送の確保



耐震強化岸壁(潮見ふ頭)
潮見ふ頭2バース(全長315m)
大江ふ頭1バース(全長185m)

国際コンテナ物流機能の確保



耐震強化岸壁(鍋田ふ頭)
飛鳥ふ頭南側CT2バース(全長750m)
鍋田ふ頭CT2バース(全長635m)

耐震強化岸壁の補完機能



浮体式防災基地(ミニフロート)
浮体式防災基地(ミニフロート)2基

名古屋港水族館

名古屋港水族館は、1992年(平成4年)にオープンした南館と2001年(平成13年)にオープンした北館の2つの施設からできています。

北館のテーマは、「35億年をはかる旅～ふたたび海へもどった動物たち～」。生物たちの進化の過程で海中生活に適応していったシャチやバンドウイルカ、ペルーガなどの海棲ほ乳類を展示しています。日本最大のプールで繰り広げられる躍動感あふれるダイナミックなパフォーマンスも楽しめます。

南館は、「南極への旅」をテーマに日本から南極までを5つの水域に分けて約500種5万点の生き物を展示しています。ここでは、それぞれ異なった環境に適応しているさまざまな生命に出会えます。

名古屋港ポートビル 名古屋海洋博物館

名古屋港のシンボルとして1984年(昭和59年)にオープン。高さ63m、ユニークなその外観は海に浮かぶ真っ白な帆船をイメージしています。3階には名古屋港の生い立ちと役割、海や船に関する展示を行う名古屋海洋博物館が、最上階(地上53m)には海を一望できる展望室が設けられています。

各種イベント

帆船「日本丸」や「海王丸」をはじめとした海技教育機構の練習船などの一般公開や歓迎行事が行われています。

南極観測船ふじ

1965年(昭和40年)から18年間にわたって南極観測を支えてきた砕氷船「南極観測船ふじ」を係留。船をそのまま南極に関する博物館として公開しています。

クルーズ船

ガーデンふ頭は、国内外のクルーズ船の接岸拠点でもあります。2018年(平成30年)は、各種チャータークルーズや、世界を巡るクルーズ船など40隻が寄港しました(ただし、6隻は金城ふ頭に着岸)。



『きらめき愛される港』にするために

長期構想 へ名古屋港の針路

将来目標 きらめき愛される港

世界にきらめく港

ものづくり中部を世界と結ぶ先進的で信頼される港湾機能と、産業の新時代を支える高度なものづくり基盤を形成することにより、物流と生産のステージで、世界にきらめく港をめざします。

人びとから愛される港

快適な港湾空間や魅力ある観光資源を提供し、安全で安心な暮らしを守り、かけがえない自然環境と共生することにより、人びとから愛される港をめざします。

世界ステージでのさらなる飛躍に向け、概ね20年先を見据えた「長期構想」を策定（2007年3月）

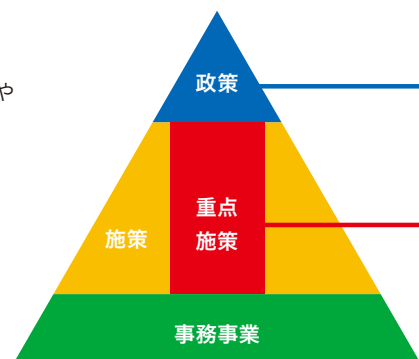


長期構想の推進

長期構想を実現するため具体的な施策や事業展開を体系化した「名古屋港管理組合政策体系2018」が平成30年度で終了したことに伴い、新たな5か年計画として「名古屋港管理組合中期経営計画2023」を策定しました。

中期経営計画2023は、特に重点的に取り組む施策を重点施策として位置づけるとともに、経営の視点を取り入れることで実効性を高めた計画としています。

- 大きな視点から目指すべき方向や目的を示したもの
- 今後5年間、特に重点的に取り組む施策
- 政策という大きな目的を達成するための個々の施策
- 施策を推進する事務事業



政策

大きな視点から目指すべき方向や目的を示したもの

- 国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり
- 港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり
- 環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり

重点施策

今後5年間、特に重点的に取り組む施策

- 重点施策1** 国際産業戦略港湾の実現に向けた取組の強化
 - 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業
 - 金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 等
- 重点施策2** 地震・津波対策の充実・強化
 - 大江川地区地震・津波対策事業
 - 防潮壁改良事業
- 重点施策3** にぎわい創出に向けた再開発の推進
 - ガーデンふ頭再開発の推進
 - 中川運河にぎわいゾーンの魅力向上
- 重点施策4** 港湾活動のグリーン化
 - 低炭素化の取組の推進
 - LNGバンカリング拠点形成の支援

※主な取り組みを掲載

重点施策の主な取り組み

A

重点施策1

飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業

中部圏で生産される自動車部品・産業機械等の東南アジア向けコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化に対応するため、飛島ふ頭地区（NCBコンテナターミナルR1岸壁・R2岸壁）既存の水深12m岸壁を増深（水深15m）・耐震化する改良工事を引き続き実施します。



B

重点施策1

金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業

我が国の基幹産業である自動車関連産業の国際競争力を維持・強化するため、完成自動車の輸出やトランシップ、海外生産車の輸入を行う完成自動車のハブ港としての更なる機能強化を図る必要があります。船舶の大型化への対応及び効率的な輸送の実現に向けて、金城ふ頭に完成自動車輸送機能を集約・拠点化する新規耐震強化岸壁の整備及び保管用地の造成を引き続き実施します。



C

重点施策2

大江川地区地震・津波対策事業

大江川地区の地震・津波対策として、安全性、経済性などを踏まえ、河口部に防潮壁を新設することとし、今後は、関係者との調整を行いながら整備に取り組みます。また、汚染土壌を封じ込めている箇所については、非液状化材で盛土するなど汚染土壌の拡散防止対策に名古屋市と共同して取り組みます。

D

重点施策2

防潮壁改良事業

地震・津波対策として、水際線に面し背後地盤高が低く津波の浸水によって大きな被害が予測される箇所について、優先的に防潮壁の改良を進めています。今後も継続して改良を進め、防護機能を強化します。

E

重点施策3

ガーデンふ頭再開発の推進

「ガーデンふ頭再開発基本計画」に位置付けられている「にぎわいの創出」と「くつろぎの場の提供」の実現のため、名古屋港水族館の集客力強化や緑地・広場の機能向上などについて、民間事業者への意見聴取を行うとともに、国や港湾関係者との合意形成を図りながら、再開発の基本的な内容を具体化し、再開発の実現に向けて取り組みます。



F

重点施策3

中川運河にぎわいゾーンの魅力向上

「中川運河再生計画」で位置付けられている「にぎわいゾーン」において、護岸の老朽化対策及びプロムナードの整備を行い、東支線においては、護岸補修及び遊休地の有効活用を図るとともに、水質改善に向け、覆砂による底層改善に取り組みます。

